



実川たかし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

「チーバくん」で県産農産品振興を!

販売促進に活用を提案



2月議会の壇上から農林振興などを訴える実川県議

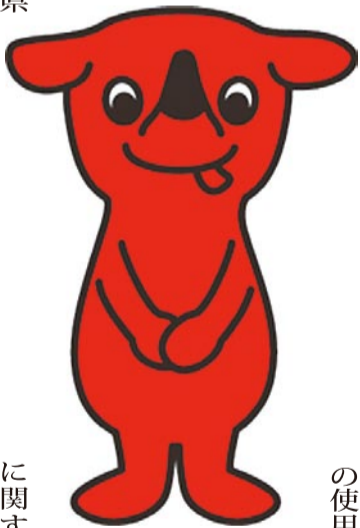
実川議員 千葉県のマスコットキャラクターに公式決定されたチーバくんは、県産品のPRや千葉県への観光客誘致など、県のイメージアップに大きな役割を果たしています。

農産物出荷箱へのチーバくんの利用は、赤い色で情熱的なイメージを伝え、また、千葉県の形という特徴もあることから、県内外へ県産農産物への興味・関心を高める効果があります。チーバくんデザインの農産物出荷箱の活用状況はどうか。

総合企画部長 チーバくんのデザインについて

山武郡選出で、地域と県政のパイプ役をしっかりと果たし、県議会でも次第に評価を高めている実川隆(じつかわ・たかし)県議は、新年度県予算案などを審議する2月定例会議の一般質問に登壇しました。実川県議は、県のマスコットキャラクターである「チーバくん」を県産農産物の出荷箱などへデザイン化し、販売促進に積極的に活用するよう提案するとともに、ロゴマークの使用料免除の範囲拡大や手続きの簡素化によって、農産品のPRにチーバくんを役立てるよう要望しました。また、4月に開院する東千葉メディカルセンターでは、県による一層の財政支援を要請し、地域の声を県政へ届けました。

2月県議会一般質問に登壇



は、収益目的の場を合を除いて原則無償となっており、県や市町村だけでなく、チラシやポスター、商品パッケージなど、民間の事業者などにも広く活用されています。

民間事業者等に対する使用許諾は、平成24年度は約760件であり、平成25年度も昨年度を上回るペースで活用が進んでいます。

実川議員 チーバくんデザインの農産物出荷箱への活用状況はどうか。

農林水産部長 県では、農産物の販売促進を図る上で、チーバくんのデザインを活用することは有効な手段と考えており、平成23年から海匝・山武地域のスイカやイチゴの直売用出荷箱への活用を、さらに24年からは県内稲作農家の多くが使用する米の出荷袋への活用を進めてきました。

また、25年の秋以降、チーバくんデザインの使用

に関する規定に基づき、生産者団体などに対し、使用方法を広く周知した結果、山武地域のトマトの出荷箱、きみつ地域のイチゴのレジ袋など、野菜や果物での活用が増加しています。

要望 チーバくんのロゴマークの商品への使用は、収益目的の場合、使用料が3%かかります。農産物などの一次産品については、県民運動のフードアクション・ちばに参加することにより、この使用料が免除になりますが、もっと使

とにより、この使用料が免除になりますが、もっと使

圏央道4車線化、国へ要望

実川議員 成田空港から東京方面への交通アクセスは、湾岸ルートに加え、圏央道からのアクアラインルートが大変重要になってきました。圏央道は、周辺道路のネットワークの整備により、利便性が向上するとともに、沿線地域の開発も進み、交通量が増えています。これまで千葉東金道路だった横芝東金間は、昨年開通した東金木更津間と一体となったことから、特に交通量が増加し、交通混雑が発生している状況です。

そうした中、円滑な交通を確保することは重要であり、圏央道の早期の4車線化を図る必要があると考えます。そこで伺います。圏央道の4車線化の見通しはどうか。

国土整備部長 圏央道について昨年、東金・木更津間が開通し、東京湾アクアラインと一体となって、松尾横芝インターチェンジまで直結し、空港と都心をつなぐ新たなルートが形成されました。

順次、交通ネットワークの整備が進む中、その効果

個性ある山武を創る

山武郡や県政のご相談、ご要望をお聞かせください

実川たかし 県事務所

〒289-1732 山武郡横芝光町横芝515 TEL.0479-82-2688 FAX.0479-82-2799

東千葉メディカルセンター 県の財政支援を改めて要請

飼料用米の取組みを強化へ



議場の自席から再質問に立つ実川県議

実川議員 東千葉メディカルセンターが開院することで、この地域の医療提供体制はどのように改善されるのか。

保健医療担当部長 同センターは、救命救急センターを併設する地域の中核病院として開院することを予定しており、これまで医療圏内で対応が困難だった脳卒中、交通外傷などの重篤な救急患者の受け入れも対応することとしています。

保を図り、がんや急性心筋梗塞などに対応した高度な専門医療を受けることが可能になります。

「要望」 東千葉メディカルセンターの開院に、大いに期待しています。しかし、同センターに併設する救命救急センターに対する財政支援については、広域圏ごとの市町村会議や個別に市町村長を訪問し理解を求めたと聞いています。長からは「県が負担すべき」、「設



開院する東千葉メディカルセンターの建物

立団体以外の市町村が三次救急医療機関に負担している例はない」などの意見があったと聞いています。このままでは、周辺市町村で支える財政支援スキームの理解を得ることは難しいと考えます。設立団体が、東金市、九十九里

町と財政規模の小さい市町であることから、県が例えば、立ち上げ時期など一定期間は、周辺市町村とともに救命救急センターへの財政支援を担うなど、同センターを支えていただくよう要望します。

実証展示ほ場を設置

実川議員 国は農業の構造改革を加速させるため、新たな米政策として、飼料用米など需要のある作物の生産を振興し、農家が自らの判断で作物を選択する状況を実現して、需要に応じた米生産が行われるよう、環境整備を進めるとしています。そこで、国の施策の見直しを受け、県は飼料用米の取組みをどのように進めていくのか。

農林水産部長 県としては、国の新たな施策を踏まえた取組み強化が必要と考えており、県ではフレコンバックでの流通促進に向けた支援に加え、新たに具体的な収入の試算を含めた資料の作成・配布など、農業者への丁寧な情報提供、収量増加に向けた栽培技術の普及や専門品種の導入などに取り組みを進めています。

置し、その普及拡大を図ってまいります。
「園芸全国1位を」
実川議員 県は、「ちび元気プラン」で、農業産出額全国第2位の奪還を目標としています。この実現のためには、産出額の約半分を占める、野菜や果樹、花きなどの園芸品の生産増大が重要であり、園芸産地の強化が不可欠だと思えます。園芸産地活性化支援事業の成果はどうか。

農林水産部長 本事業は、生産力と販売力の強化に自ら取り組む産地に対し、マーケティングの専門家などからなるサポートチームを派遣し、①消費者ニーズに対応した産地戦略の策定②新品目の普及のための実証展示ほ場の設置③生産者が主体となった販売促進活動の実施などを支援するもので、本年度15の産地で取り組みが行われています。この結果、山武や印旛地域では「春夏ニンジン」や「春ネギ」の3つの産地が、国が定める指定産地に認定されました。今後とも、園芸算出額の部門では、全国第1位の奪還を目指し、関係団体と連携しながらの活動を支援し、園芸産地の強化に努めてまいります。



知事を横目に地域の振興を訴える実川県議

確固たる国際空港の地位 羽田増便で国へ要望

実川議員 県では、羽田空港の国際線増便が成田空港に与える影響をどのように考えているのか。

総合企画部長 経済・社会のグローバル化が進展する中で、成田空港はアジア有数のハブ空港として成長することが目指されており、確実にその地位を築いてきているものと認識しています。

森田知事 県としても、成田のグローバルハブ空港としての地位を揺るぎないものとすべく、空港会社や周辺自治体と連携して、空港機能の強化や利便性、快適性の向上など、さらなる魅力向上に努めていきます。

「要望」 成田空港は、オーストラリアが実施されたことにより、空港会社のみならず、県及び地元自治体が密接に連携し、持てる力を結集して臨んでいかなければなりません。成田空港の魅力と競争力の向上を図り、世界から選ばれた空港となるよう、県及び空港会社の今後の取り組みに大いに期待したいと思います。

成田の国際空港の地位を確固たるものとするよう、改めて国へ要望したところです。
実川議員 今後、成田空港の地位低下を招かないために、県はどのような取